# 大磯観光ガイドマップ

## ～歴史と味の散歩路～

虎が雨（東海道五十三次大磯宿）

お問い合わせ

公益社団法人大磯町観光協会
神奈川県中郡大磯町大磯878-1
TEL.0463-61-3300
http://www.oiso-kankou.or.jp

大磯駅前観光案内所
TEL.0463-61-3300
営業時間…9:00～17:00
休業日…12月29日～1月3日
※駐車場、情報提供、ガイドマップ案内

大磯町役場産業観光課
TEL.0463-61-4100



発行／公益社団法人大磯町観光協会 http://www.oiso-kankou.or.jp 平成25年9月
制作／株式会社ゼンリン
「この地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の１万分の１地形図を使用した。（承認番号　平25 関使、第22号）」


MEMO

## 大磯の歴史

### 国府の里

【相模国の国都】

相模国の国府（その国を治める役所または庁舎の所在地）は、奈良時代から平安時代初期までは長柄（ながら）・大庭（おおば）地区から東側の台地上で、この地区の東部一帯に、平安時代末期から戦国期（現在の小田原市、平塚市、茅ヶ崎市）にかけて、この辺りにも国府の一部があったと考えられています。

また、国府の近くには、国分寺（741年）や国分尼寺（745年）、相模国一の宮である寒川神社（寒川町）などの主要な施設が置かれました。

【大磯宿】

東海道が整備されるにつれて、それまで東海道沿いの要地であった花水川（金目川）河口の港町であった大磯宿は、次第に衰退していきました。

次いで慶長6年（1601）には36町を1里（約4km）とし一里塚を作り、街道筋にマツやエノキなどが植えられました。大磯町内の住居配列や町並みは、この頃に整ったと考えられています。

【本陣】

大磯には本陣、小島、石井の三つの本陣がありました。

三つの本陣とも建坪は230～250坪で、海水浴客で賑わった夏場を除いては、ほとんどが休泊客もなく、参勤交代の大名行列などもありませんでした。

【脇本陣】

脇本陣は、本陣と同じ規模の建坪で、本陣の補助的な役割を果たしていました。

【問屋場】

問屋場は、宿場の人馬の継ぎ立てや、公用の書状や荷物の運送などを行う施設で、大磯宿では、本陣と同じ敷地内に置かれていました。

### 明治の別荘地

【日本最初の海水浴場】

初代県知事大給恒（おぎゅうひさし）が、わが国最初の海水浴場として大磯海水浴場が開かれたのは、明治15年（1882）のことです。

当時の『東京日新聞』は「…残らず驚くべき婦人達の大勢にも出場に遜ぜし」と、女性の参加者が多かったことを伝えています。

【海内第一の避暑地】

大磯に海水浴場ができると、伊藤博文や山県有朋、陸奥宗光、大隈重信、西園寺公望、原敬、犬養毅、尾崎行雄、桂太郎など、政財界の大物たちが競って大磯に別荘を構えました。

▲旭土木跡の碑



小島本陣の碑▶